

門へ利口
號1708
卷

西行集抄卷第七

同源

一 唐亭子乃奉

二 あ山禪室の僧乃奉

三 独撰圓大庭乃僧の奉

四 す也三人乃奉

五 仲善人法乃奉

六 藤人僧都の奉

七 そ相房乃奉

八
覺靈之人的事

義景うみよもんばくそく

や
ももく
春野の奥み住鳩乃本

比叡山家須乃寺

大前の本

十三
麻鳴の歌の事
とさうのさうふと

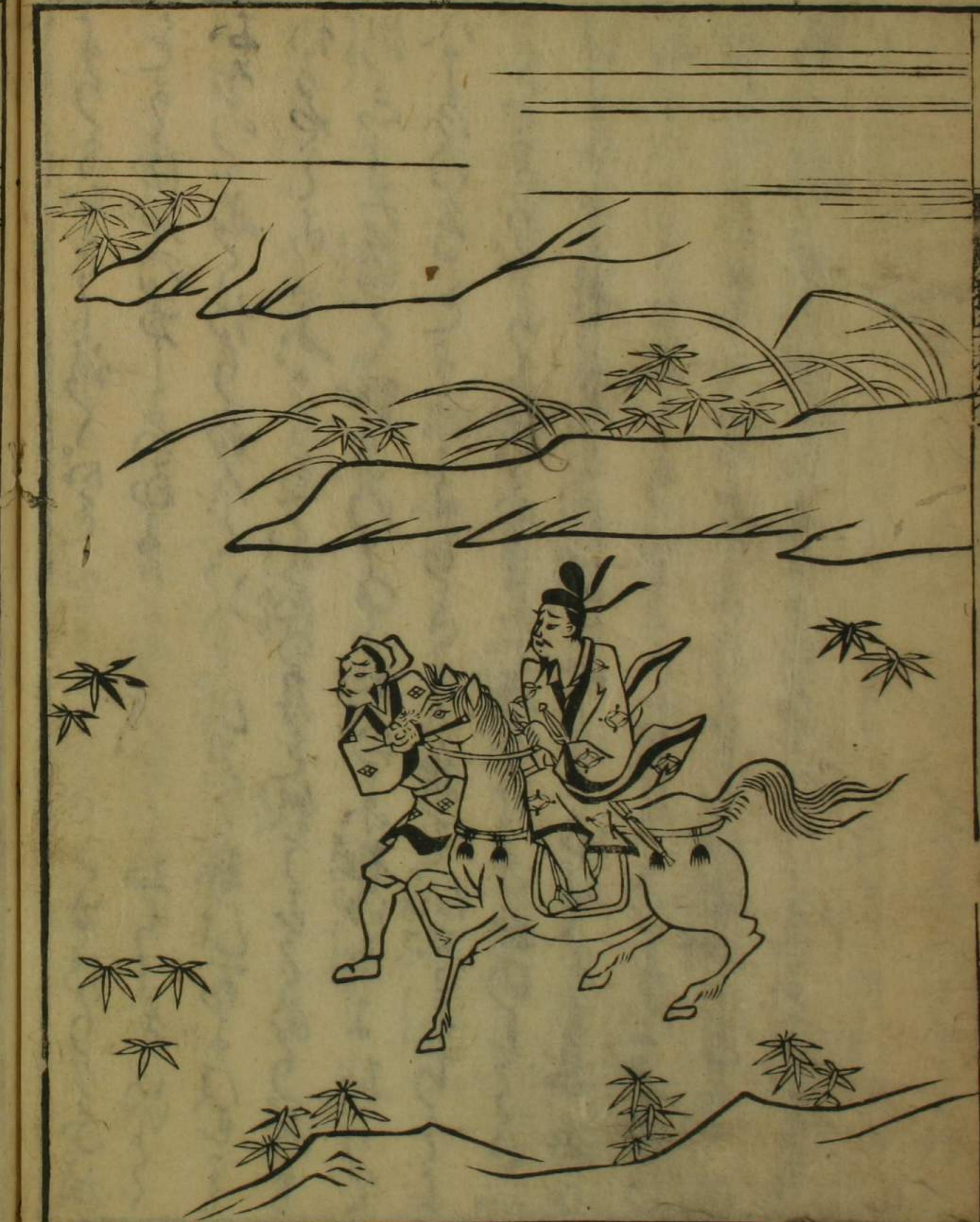
才氣儒男とくゆゆきの本

五
伊勢九尾八事

西行撰集抄卷之七

唐亭子内奉

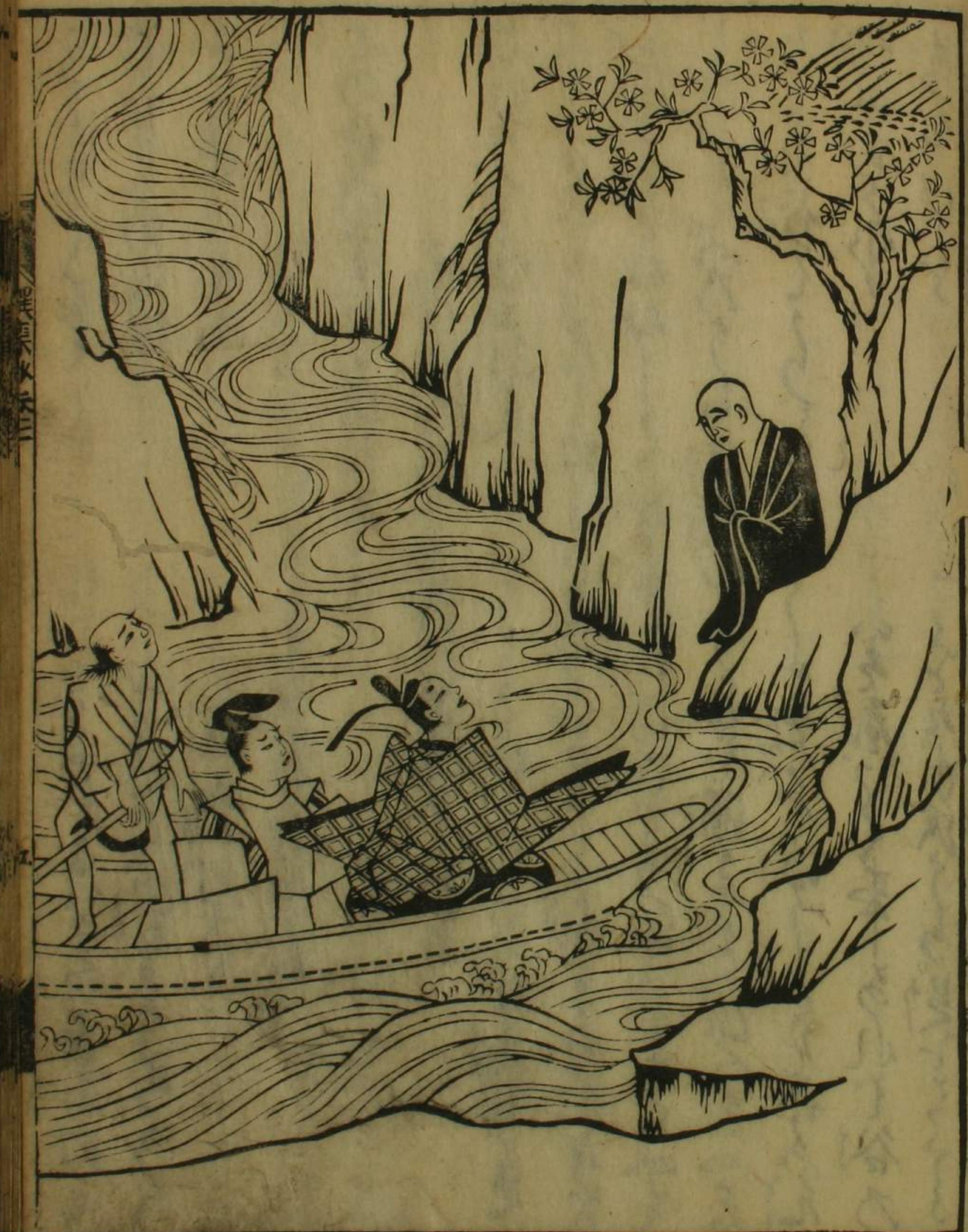
よもやまに。かのじゆうりそやりたる。相
とうあ叶の事ある。とてあらゆる事あ
おがつ、わくやりあとどつて。ばかと歩ひ死ふ。じと
わくやとあふ。くまみの身を教うとくめり。あ
あくみ宿く。野うりゆきをやのふれのトよもりて。
かのむのもとあはうふある。とくねじで。ばくす
もとくね、くらきを終あきだ。廢くそくの歴のとくき
じあす枝かよ。死骨のゆきひ林りふ。あ
ひりとあそく。里よゆきひ林く。ばくす
ひりとあそく。里よゆきひ林く。ばくす
黒の者もなる。ことじよえりある。ちくわくらんの
室は梅院と云。又めぐりあしとあやうしぐま



とあんひきゆう。づてぬよさむあわせ。
つこいだ。彼地のかくよ猪をもぐくやうり。あくまくの
骨。あみをすまかよ魚へく。あくひかんひくからと巻
くまとひくらへく。あくやう。いふ思ひよご竹。毛そ
う被そじうおふまん。あくねくとひ宿すみ。あ
み。あ猪ぞ烈。娘とね狼。娘よのゆひく。骨と
あくちとあかひと參て。あくぬひよくねや。あくと
あくひとあくちとあくぬ。あくと
あくひとあくちとあくぬ。あくと
あくひとあくちとあくぬ。あくと
あくひとあくちとあくぬ。あくと

二
西山の宿の傍の
アシタカノハコヤ

らんとかくも言ひ難い。波文が心もからぬ處だ。のむ
ちやまとあめがりてあらわる程と、かのよき花は死
即涅槃涅槃といひ度度とあらざる程なり。その程を被被
めぐるふるやうめぐらさぬよどく。波文波文と、
かのよどどりある程々程程々程と、か見聞のゆゑを
も詰つたり云々。とのくらぎとぞめぐらさぬ
矣。圓舟圓舟とあるゆゆともがゆゆとぞめぐらさぬ
程程をばよこむりわく。びとく人人とぞめぐらさぬ程程と
せひくも。とある奉奉ふゆきを自御自御々他々平平まつまくと
のりよれゆきを。おとしおとしあとしあとしとぞめぐらさ
ることのくともあらゆきとぞめぐらさぬよらむとぞめぐら
くともゆきと。ひどきよあそとぞめぐらさぬよ
くともゆきと。ひどきよあそとぞめぐらさぬよ



アラタニシタリ

又はうれやかとすまひの居てこま
可いをそぞろかよ。ひよ(よ)うへ
ひよ(よ)うへ

あらうとれよ。刀をくわひととふかん。まよをよみきわふる
山原。とくにや。理本。のさとひ。もと今を
うすえん。乃ち清濁のまつまつも渴む。びくゑの去
そそぎ。あくもとふくと。かく
俗をとくらま。ありまを。かく事。あれど谷乃
あをひ。といふ。かくと。かく。おほしら。足をも

三

相模の大庭の宿のより

うとひはよ。うるおふくの事。法あめ。うれども内
人のまへすま。高麗。あ。若不若ひ。まゝれりひゆ
のも。まよん。ひ。も。と。ゆ。と。も。が。や。ぬ。ぬ。ま。え。い
經。ほきの。法。乃。名。あ。そ。不。ひ。ま。う。の。食。あ。い
ア。無。根。ト。れ。ト。が。の。衣。ト。ゆ。と。東。を。あ
と。か。れ。た。ま。と。ぞ。わ。あ。と。ま。ら。え。ん。と。ひ。れ
ひ。ト。義。ひ。せ。ト。ん。の。あ。く。と。と。と。と。と。と。ひ。れ
相。模。か。大。庭。の。相。の。ト
ひ。ト。お。兵。の。ゆ。よ。ん。を。と。つ。能。れ。か。よ。び。ひ。ざ。れ。底
ひ。と。ひ。ふ。あ。き。ま。便。て。や。り。き。例。里。ふ。あ。く。め。と。乞。て。
え。を。け。さ。よ。法。ト。く。方。を。た。と。く。ふ。も。く。ま。と。乞。
あ。ん。一。世。故。は。り。作。り。ま。れ。こ。と。や。極。其。里。よ。せ。の。う。ら
う。び。あ。



をももつて。そのまゝもあらうとめぐらしき
物の。あつてはいじしてよろこばれりて。めぐらし
たまとのえのくの草。ひげくらむゆき。あま
らんじゆひのくもほざくまよ。ぬあ。わとゆくも
うみゆをねとあえあをそやあま黒乃のく
やぢすくと。び僧かのく。あくともとお能と。相
あくくも猪と。だもとがくびかくもくじく
さうりくれをとくら。せんもとがめ。おふかやあとく
ゆく。念仏をとくあら。がくあがくらとよびよるや
くも。あくとつむぬれあんく。あくとくわく。氣を流す
なり。げゆくをゆくをゆくをゆくをゆくをゆくを
ゆくをゆくをゆくをゆくをゆくをゆくをゆくをゆくを
ゆくをゆくをゆくをゆくをゆくをゆくをゆくをゆくを

やせよぐるまふ事

ひ、山陽まつりんとらふあよ仲義人油。い。
文智者いまだらとく。森院を勝信部の手す
ふくらぬなり。おもあらそえうづくのく竹色化
くはくへくね。彼へいきくめ。ぞうくす。勝信部
家よふく。多ふ附。せよく法文のうかひ。きそ
をきのとよくしてぐり。わぬ。勝信他りのほ
じ仲義人油。くらくもくふくらふくらを。どく先
とよすまう。傷部をわくあらひゆうと。きよく
ふ字く。けす。聖ひ鬼。くめ。ひくわふうと。氣そ
内よく。あ。ごぞん。く。の。あ。と。よ。暴。う。ら。く。刃を
もく。じとの。筋。を。それ。仲義。ごぞん。を。じ。す。れ
と。毛。筋。よ。ざく。ふ。何。下。ま。う。ク。筋。を。せ。よ。へ。刀。筋。



さうもひあわビ候ごんのうへよをひすとあきそ
重ねりてゆきよ。としらゆくとんかうよとま
せひりじがんあらびんとくらうひ。重のあふ
むとく候。さわくまくは人あやう。候のあくよ
を。延年才力の多きと。又折遠れよも化くとあく
せり。よもよじとひよみかくをまくとよく
あく。会珠。まくと。そのうと。かくと。あく

立
御夢太酒ノ華

延喜式の傳來をもととするものなり。ひ仲婆妻の事どもがくら
ゆきまことひざまのひくわがまの事人候のりも珍ひすまく
天う下内てそりてもとぞくたゞをあわめあらひる。

ひうくもく。うげあれわらかくやう。うふあきとどく
ひくい乃ゆあきとけよやゆえん。かのまのまわあふふ中
ちくいのむなあて運よまくをあつらとあいまたく
あふやう。ああ母をねといふが、されと伊勢太田。
はまやう。らとのごうふさんとあくよ。じゆ云ふたう
そげあふをまのねをとまく。まくのゆびて。まく
もくのあくらむ。あくまれわをあひゆる。まく
とくらむ。ときよふとく。じく酒をまく。まく
をまく。あんとく。山をまく。まく。まく
劍をぬく。うかくあくとまく。ひく酒をまく。まく
はめくとく。あくとまく。酒のじくふあく。出ゆらる
あめう牛ひあくとくとく。あく。櫻真置の者。たま
めばくふえあく。あくとまく。事。たまく。あめふけ



を後もいのちの間でかと放してやう。初の四日
強く。海老半魚の魚を食すが。じあらの事と安
竹ひく。かとよもよもからえんをしとく。又さくは
きくまくらをねど。こののじうへとくねくと海老
をもあうをり。こあう井とうをもくうゆふ。わざれ
め出でないもそりきをあつまう那。だるとの仲義大法を
のむふく千ひ初祝あそび。あふほくじく
じうり竹ひく。ねをすもかくとくとけたうちうど。まを
久を画竟乃やまふくいもそりすねど。ひくせう。さ
と現一竹ひくも。うわくとヒーと鷺のさくぐをみと
ゆ。ど。海老を若宰相がゆく。まへ男をう。そ程よ
くうの塔ひゆうりとあるべ。父を宰相のひせのえん
はくまくらひ。一束のもうのむよりあひゆ
(六)
魚の僧教乃本
奇處脣引小魚の傍鄰と云ふとある。ありうち等
小観法をもる。とく。あらあひよの室をとくをゆ
あり。およまかあへ。とく。おらう。おのれの
のよよん。でもう。くわう。あ。魚の傍鄰の室よお
け。よよよ。おもて。おもて。おもて。おもて。おもて。おもて。
とく。おもて。おもて。おもて。おもて。おもて。おもて。おもて。
多ふ。おのよよよ。おのゆ。おのゆ。おのゆ。おのゆ。



此あはるの日内記の道のむすびあるよ。信教もあめん
あくやうひをくれと。それよりおほそとのれをあけへ
竹ひし。せふじつ。えりふらひ。ひもせんつと
すきれど。通すゆく。まくいまどりくふと。ま
のうすよと。あく。まくにそひやくと。ま
あきえうり。ちもくと。目をぬくと。ま
むくと。あがと。あらん。信部の身をえくと。ゆよ
一筋筋ゆく。ゆきと。内記入通。筋
とわき筋もひと。筋。筋ゆよ筋の筋。へりくと
こう。ゆすと。とく。とく。あ
ゆあともうと。又信部がひよくひよく。ゆ
みやう。証法。あく。あく。あく。うゆ
道ふゆく。あはる。信部の言ふと。うゆ
ゆふゆふゆ。信部がひよくひよく。ゆ

歌はとくとく。歌より端をくべ。歌歌よ、徳よとくとく
わとくとく。ひよゆう。むかへ代來代よりくわ
くわ。ね。姫乃まくわりゆと弱ふゆめ。まよや。
ゆ、通ふ。うそひく。ゆく。さくじく。あゆゆ
ゆくをゆ。ゆれ。ゆく。ゆく。ゆく。ゆく。ゆく。ゆく
ゆくをゆ。ゆく。ゆく。ゆく。ゆく。ゆく。ゆく。ゆく。ゆく
ゆくをゆ。ゆく。ゆく。ゆく。ゆく。ゆく。ゆく。ゆく。ゆく

七
すゝ網房の本

まわ筋とよびたり。あニヤサリ。計強
有りふる事川もびゆく。やうやう引ひのあぐく
とくらわりき。ううあい。あんうーあふを。うぐくは
しと食くをう。ひ黒アノモ田とじ。あ肩ニ空ふ。れうを
ねんがく夜む。道る者多くかうへちうど。
あくまみびあひゆきと。其ひゆき事あれど。
あきくともとのあきくもとねよ。まほみ小見耶タヒシ
たり。かれ男。あまうり。事よあう。あ角のあつあり
きそ。法とめりたしんさく。ぐくこえくもあわくも
ゆく。刀を手に。腰を附。あがく。ひ傍水あう。よ
ざく。自そ。ゆく。あがく。ひ傍水あう。よ
ゆく。いも。ひよき。いご。う歩。ひと云ふ。よ
き。いも。ひよき。いご。う歩。ひと云ふ。よ



ひと黒のくまはあひもお馬くまし
沙名とあく縁をじとばくふとま。ひ幸がま
あさりとももかくじと観音ありん。の化
とくい竹ひきのんじとえのを
八月ふれきへ懸元年九月十八日と観音
見えとらうひ竹ひきと。とく飛すまよあひわ
みふくよ。ぐもがもあ。たゆひゆよまふ日と八月
とやうん柄たあきとま黒のくままくま
そりぬめふ。おぬ。ゆよあ。ぎき死よまくま。ぬく
ひくゆくゆく。お津氣をまみのあくら見す
危鑊と人の本
迎ひき縁のまよ。危鑊と人の本
あまうこま。言家ことげとけくま
あまうこま。言家ことげとけくま

八

竟鑄上人乃書



而す。居をし。まくと。かみ。七十ニト。行。三
百。あ。は。ま。と。く。ひ。よ。と。げ。か。て。う。き。よ。樂。ま。せ。ば。
花。ゆ。く。彼。よ。自。か。な。く。経。を。じ。り。か。て。う。と。あ。ん。面。
ま。を。引。つ。と。と。の。や。禪。三。昧。の。内。面。を。説。じ。禪。
うち。あ。ま。一。や。ま。と。も。と。と。あ。か。き。よ。る。と。
事。外。伝。信。因。利。き。ん。と。と。書。を。う。經。され。ば。と。と。
御。小。身。よ。も。と。と。あ。う。と。と。ど。ゆ。ふ。私。を。ま。ゆ。き。と。
お。ま。絆。と。せ。と。と。と。と。ゆ。が。れ。ゆ。き。と。と。と。と。と。
た。ま。く。ゆ。く。と。と。と。と。と。と。と。と。と。と。と。と。と。
の。大。師。お。ま。絆。と。と。と。と。と。と。と。と。と。と。と。と。と。
是。を。と。と。と。と。と。と。と。と。と。と。と。と。と。と。と。と。
あ。く。ゆ。く。と。と。と。と。と。と。と。と。と。と。と。と。と。と。と。と。と。
ち。お。仰。を。辞。ま。い。ら。め。と。と。と。と。と。と。と。と。と。と。と。と。

九

義宗之作

九 義家と作よもやばくをも傳ひ奉
君もあはむ。圓一衆の御事。義家と云ふ。
あがれある所を入る。まづ人にはまう
いがれあざとよ。遙よ遠とて布や者を
ああわす。あひゆきあり。もとより
ああはき。あひゆき。いのちをとく。
ああゆよ。あらじ。あれてやうと云ふ。家をもきえ
まよひきう。毎食もと一日よ一食ぢり。あくこじよとの
やもとよくのまかせ。どうもとく。



吉野乃郷小也とし僧乃東

十 吉野乃鄭家とし僧の事
長義乃毛利家也。か家乃毛利氏也。だうとて
くをも頂礼。あまくはあととあわいへくまで
吉野よりてのびりとく。がと歩を送りゆきよしも
ちね花のえ。本乃毛利也。あれあらかじま。かと思
ひまく。また機もくらへてく。くやうめ。あくま
くまうちまよみがる。れ花乃毛利也。うらう。機を
寄よすとくまうらひこゑ。がくまくふそく。すくにゆき。
安禅室塔乃毛利也。むかへんをく。すくにゆき。
爲つ。か終どこのあたひまとあくまく。すくにゆき。
凡と歩とくまうりゆきよ。あく年の弥生のひかり
乃前よ瑞乃嘗ておもくゆく。ゆくゆくゆく。ゆく
年少もくふもくゆく。ゆく。ゆく。ゆく。ゆく。

あくまでまことの如きをうながすとしとへ

ほんのまことにありてありありといふ

ありともあくまであるといふ事

こうへゆるべく無む心じゆの興
お世のうごきゆうこのうつ。もくもくとまことにあふるをさん
竹へとひきしお。食くはだらひたまくらふ。私をとくとくを
あらじ。橋乃は本もどりまくらふ。私をとくとくを
ゆく。そぞあくとめくゆく。あ。さくわがくわくま
みをそそぎちらまくらむ。黒くろふて思
じぬる處あらんとかくと。ばくじくわくじく
もくうふゆうじくと。何くうなうせのゆくそく
まくらむくと。御のゆくと。三世不可。深乃根と
くわくくわくくと。もくらむくらむく



あらのあい。まよひひやうけふ。うふ道の者。
ゆくは下、さうちをもあわす。まよひ
とあんがともやをせりてかのうけふよ。まよひとあんの宿
道の者。まよひえやうけ。まよひとあんの宿
乃まよひえやうけ。まよひとあんの宿
ちくぞりゆか

十一
のえ乃山宗順乃本

よし。さうがひの事。まともにやとしりをこらへ
る。まあめやうりわを経たての事。まざびりはく
けり。まふ強勢うと角龜を御^みとそひた。繫^く
のがくやうりぬ。こゝる強^く取^え取^えの風^ふ。まのせも
せぬふ風^ふ。彼^かひうづ林^{りん}海^{うみ}よむらし。
うづひと移^{うつ}き。かくとくねふね^くすくらはる
の^く。おとづれ^くの^く。かくとくねふね^くすくらはる
あきとゆくの^く。かくとくねふね^くすくらはる
ひ家須^あ。とくらうづ^{うづ}。佛^{ぶつ}堂^{どう}。ほとくめい
のひきげくれ。ぬかるもの^く。身^みの^く。執^{つか}事^{こと}。家須^くの^く
ちり^く。こくわもあひまくらほもちり^く。あひまくらほ
う。身^みの^く。身^みの^く。執^{つか}事^{こと}。家須^くの^く
けり。執^{つか}事^{こと}。身^みの^く。





極をもせ乃観るの報をまかんをあそせ紗く
宗頃の署禁うるよとひの跡すありべし
山観をもとひも空の観をみあらむとすく。お伊達
とばも空當はうそやほくとくとくとく。たまゆるの化用。下
いはるも申すあらふゆき丸。是もいとく不思議ゆげえ

士
大翁の作の事

・
うねりのまえ
ゆるゆかの事

花あそぶ小一村。さよひ。かく。合く。よね。被ありき
竹引。や。よ迎廊。乃く。あく。の。於。山。思。岐。傳。道。
じ。あく。こ。と。ふ。あ。く。や。う。が。風。て。よ。か。く。
も。思。ゆ。く。ま。と。く。ふ。う。ち。よ。の。け。く。い。あ。思。
惟。傳。道。か。む。と。思。と。な。成。き。も。や。く。徳。宣。竹。り。く。あ。く。
の。事。と。め。ん。徳。宣。竹。り。よ。ぐ。も。ふ。御。す。あ。く。
多。か。と。え。ー。の。中。か。和。ま。わ。る。御。達。事。ま。よ。は。御。す。ま。
が。ん。く。三。差。山。よ。う。ひ。う。め。き。ト。び。あ。と。と。そ。ば。
ち。ふ。ち。う。ど。や。沙。徳。宣。を。竹。り。よ。御。と。ち。や。ひ。く。御。
も。あ。う。ひ。う。う。が。あ。ふ。ち。う。び。の。く。御。敵。ま。と。よ。う。
乃。ひ。ま。よ。ゆ。そ。遠。ふ。く。き。そ。に。二。か。ま。い。う。け。の。
あ。う。ひ。被。を。諸。御。し。の。や。あ。う。ひ。被。御。無。す。あ。り。う。
ら。ふ。た。ん。で。氣。よ。竹。り。え。ち。う。ふ。り。の。く。に。社。竹。り。



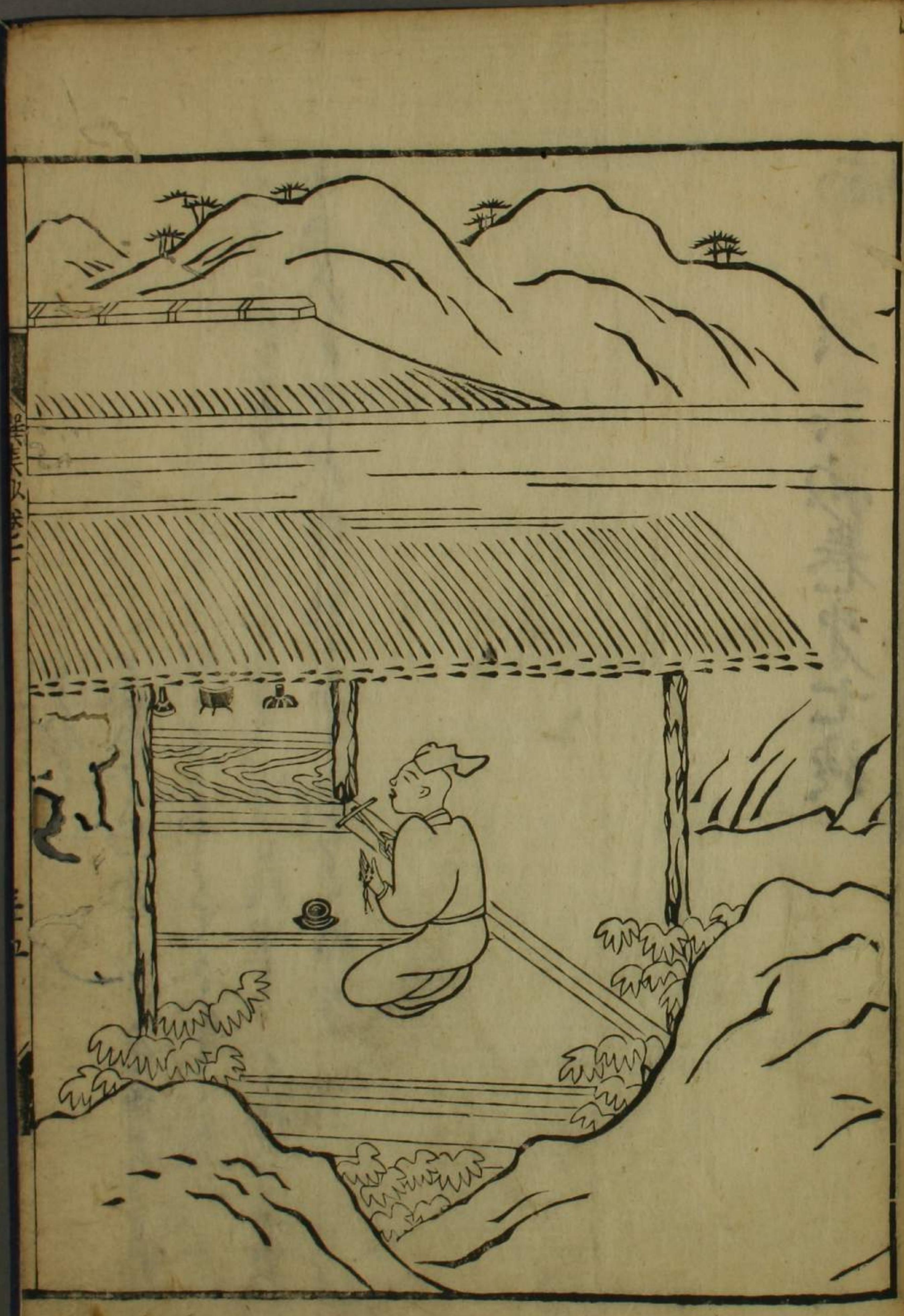
十四
斗氣懦男之多才者

やうやうとあらぬ事。あらぬ事。あらぬ事。
ちり。あらぬ事。あらぬ事。あらぬ事。
波乃よりも楊はひしとどぬ谷川のあら流るぬ
そそをもゆきをゆく。さうきく。もゆき乃はかのちに
きくもふ。お書きのり楊ぬきかへはくひせりす
くみ死。ほきむせのうてまことせんこまくえやう
え。あくらそとをもゆく。ゆくまかとくくのうく
ちく。ゆのうじふとゆく。わくえれお色をもくらふん
ひ。おれゆゑよ入よけりとり。ゆくもゆく
む。あくらそとゆく。おれふれおれ。ゆくの
ゆくのゆく通ゆよけりとし。ゆく。おれ
佐藤のゆく。ゆく。ゆく。ゆく。ゆく。ゆく。ゆく。
ゆく。ゆく。ゆく。ゆく。ゆく。ゆく。ゆく。ゆく。

あも參ら候。おもぢやうふもく。儒
をの二人ぢり。ひそのかよ。おまも
本のます。ひまふ。いふ何事かとす。
ぞうりしりまつかりまわ。おま
本をうきくらへ。おまよ。じん
てとせあひよひよ。おまくさむ下
修まや。おま車むぢり。おまがく
おたゆり。びるをいだのくふ
あそき。おま車むぢり。おまよ
びくふと。敵のわ。がくまくまく
がく。がく。がく。がく。がく。既



五
併勢乃尼志事



御事もそれよりいふをかねり。心まごも道くをと
のう術を。功業よそゆゑを。しんか念佛をな
せぬあわとありしもよゆゑ。あざてくあらう。前見
とくとくセキモト。すのびゆゑ。あれつどくやうるあ
修業のあすれあらゆるあとをくわくやう

西行撰集抄卷中七

五

